

令和元年度 健康保険組合 全国大会

令和元年度の健康保険組合全国大会が昨年10月22日、東京千代田区の東京国際フォーラムで開催されました。大会のテーマを「迫る2022年危機！今こそ改革断行を！-現役世代を守りたい！国民皆保険を支えるために-」と銘打ち、労使の代表や健保組合関係者約4,000人が参加し4つの大会スローガンにもとづく決議を健保組合関係者の総意として採択しました。

昨年は実にさまざまなことがあった1年でした。特に後半は、度重なる大型台風と大雨が日本列島を襲い、東日本を中心に甚大な被害が生じました。復旧策は講じられていますが、被災者の生活再建は道半ばの感があります。また10月から消費税が10%に引き上げられました。消費税の増税分の使い道は、当初は全額を社会保障に充てることになっていましたが、教育

の無償化にも回すことになり、社会保障制度を安定的に維持する財源が不足する恐れがあります。また、健保組合・健保連が提唱する「2022年危機」問題も多くのマスコミに取り上げられ、22年から団塊の世代が後期高齢者になり始め、社会保障費の急増が見込まれることが広く認識されてきました。政府も9月に全世代型社会保障検討会議を設置し、医療や年金、介護、働き方改革など、幅広く議論しています。健保連は10月、SNSを通じて広く国民の声を集め、国会で健康保険の行く末を考えてもらう活動「10万ツイート達成してみんなの声を国会に届けるぞプロジェクト」を開始しました。国民の関心も高く目標を大きく超え、20万以上のツイートが寄せられています。引き続き全国の健保組合が一致して取り組む制度改革に向けた活動に、ぜひ声援をお願いします。

健康保険組合全国大会スローガン(決議事項)

① 皆保険の維持に向け、高齢者の窓口負担を原則2割に

② 公費を拡充し、現役世代の負担増に歯止めを

③ 保険給付費範囲を見直し、医療費を適正化

④ 人生100年時代を見据え、健康寿命延伸につながる保健事業を推進